
また明日

潤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

また明日

【Nコード】

N9667V

【作者名】

潤

【あらすじ】

彼女と下校していた下田を襲った最悪の事態。

あ、別サイトにもUPします。

俺は下田 秋羅。

「んでさー」

今俺は学校から帰宅中だ。

彼女の函館 杏奈と。

最初は変な名字だと思いからかった。いつの間にか好きになっていた。

そして俺から告白してOKをもらって今こうして帰路をとみにしている。

「うん。そーなのよーでもね」

俺は元々はよく話す方なのだが

杏奈の前だと聞き側にまわってしまう。

「んじゃ、私はここで」

「ああ……」

今日は何か嫌な予感がした。

「また明日ー」

笑顔満開の杏奈。

そこに俺は乱暴に杏奈を引き寄せてキスをした。

「また明日な」

「うん」

翌日。

俺と杏奈はつきあってはいるが一緒に登校はしない。

朝のホームルームの時間が

過ぎても杏奈は来ない。

何故か担任も来ない。

ガララ。

「ギリギリセーフ！」

クラスメートが1人遅刻で

ーまあ担任いないからセーフかー登校してきた。

ガララ。

今度はしんみり担任が入ってきてち。

「朝のホームルーム始める前に

みんなに残念な報告があります」

ザワザワ。

「…函館さんが昨日の帰り道、
交通事故で亡くなりました」

「嘘だ！」

俺はつい立ち上がって叫んだ。

俺と杏奈がつきあってるのは

クラスメートのほぼ全員が知ってる。

「落ちついて、下田」

「これが落ちついてられっかよ…」。

あいつは…杏奈は…

昨日俺に『また明日』って言ったんだ。

その杏奈に今日がこない訳がない！」

「下田、気持ちわかるが…」

担任がなだめてきた。

「気持ちかわかる？ふざけんな。」

杏奈は…杏奈…」

ガララ。

俺はいくあてもなく教室をとびでた。

カチカチ。

携帯を無造作に取り出し

杏奈の番号に電話した。

ブルル

なるのは発信音だけで

最終的に留守番センターに繋がった。

「くそう
」

ちょうど川原で俺は座り込んだ。

そして1人泣いた。

その後の俺は見るのも

かわいそうらしかった。

何をしても思い出すのは

杏奈のことばかり。

クラスにいても

花瓶の飾られた杏奈の席を眺めているばかり。

家帰っても考えるのは杏奈のことばかり。

そんなある日。

俺は夢をみた。

杏奈と最後の帰り道。

違ったのは最後の杏奈の言葉。

「こつちおいでよー」

「ああ」

杏奈の家の方へむかっていたはずだが…。

突然見知らぬ川の向こう側に杏奈がいた。

「こつちおいでよー」

「嫌だ」

「今秋羅は私のことしか考えてないのに？」

「ああ」

そこにもう一人の杏奈が俺のそばに現れた。

「私の分もきつちり生きるんだよ。」

私以外の誰かを好きになって恋をして…」

そこで目が覚めた。

まあその日も学校。

下校時にその夢を思い出した。

もしかして杏奈が俺のことを呼んでいた？

杏奈以外の誰かを好きになるか…。

今は無理でも、
いつかなれるんだろうか？

ふとこんなことを考えた時に
俺の頭に杏奈の声が聞こえた。

「私は空から秋羅を見守っているから
早く私以外の誰かを好きになりなさい。
でないと今度こそ一緒に三途の川渡つてもらおうよ」

へっ、杏奈以外の誰かを好きにか…
できるかな、そんなこと…？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9667v/>

また明日

2011年10月7日17時22分発行